

団体名 Take a step

部門 一般部門

テーマ 基本方針3_人づくり（2）すべての子どもの可能性を引き出し生きる力を育む教育の実践

企画タイトル

「わたしの体はわたしのもの」
子供の自己決定能力を育む金沢に！

1. 団体について

- 団体の活動概要、PR、構成員（何名、どんな人物か）等

活動理念

SDGs5「ジェンダー平等を実現しよう」

子どもたちの「なんだか変だな」という直感を大切に受け止め、何よりもまず「自分は大切な存在である」という意識（自己肯定感）を育みます。

自分を大切に想う心は、やがて他者の痛みを理解し、

「他者を尊重する心」へと自然に繋がっていきます。

これこそが、ジェンダー平等社会の確かな土台となります。→包括的性教育を幼児期から始めることが大切

体験型ワークショップを展開します

からだところの権利

ゲームやクラフトワークを用い、楽しみながら人権について主体的に学べる体験型プログラムを提供します。

科学的に楽しいアプローチ

医療専門知識を活かし、からだの仕組みと権利を、正しくわかりやすく教える仕掛けを用意しています。

多様な背景のメンバー（5名）

医療・ケアの専門知識と、長年ボランティアで培った豊かな体験・青少年教育活動のノウハウを掛け合わせるができる仲間たちです。

包括的性教育は「セクシュアリティについて包括的で正確、科学的根拠に基づき、かつ、各年齢に適した情報を得る機会を提供する」
→**未来を担う子どもたちや若者たちが健康で幸せな人生を送るための教育**

国際セクシュアリティ教育ガイダンス(ITSE, International technical guidance on sexuality education)とは、国連教育科学文化機関・ユネスコ(UNESCO)国連合同エイズ計画(UNAIDS)国連人口基金(UNFPA)国連児童基金・ユニセフ(UNICEF)国連女性機関(UN Women)世界保健機関(WHO)が協同し、セクシュアリティ教育に関わる世界の国々の専門家の研究と実践を踏まえて発表されたもの。2009年に初版、2018年に改定され、**国際的な性教育の指針**となっています。

ガイダンスは、質の高い包括的なセクシュアリティ教育を提唱し、健康と福祉を促進し、人権とジェンダー平等を尊重し、子どもや若者が健康で安全で生産的な生活を送ることができるようにすることを目的としています。**人権を基盤に、性についてのポジティブなイメージを育てて欲しい**、というのがこのガイダンスの考え方です。

それぞれの項目の学習目標は、年齢別（5～8歳）（9～12歳）（12～15歳）（12～15歳）にまとめられています。

世界のセクシュアリティ教育は5歳からはじまります。一方、日本のセクシュアリティ教育の開始はもっと遅く、内容的も希薄であることが現状です。日本の教育システムを根本から変えるには時間を要しますが、親から子への教育であれば、すぐにこの考えをとり入り入れることもできるのではないのでしょうか。

1	人間関係	家族、友人、恋愛など、あらゆる人間関係の築き方やコミュニケーションを学ぶ。 1.1 家族 1.2 友情、愛情、恋愛関係 1.3 寛容、包摂、尊重 1.4 長期的な責任ある関係と子育て
2	価値観、人権、文化、セクシュアリティ（性のあり方）	個人の価値観や文化の違いを理解し、多様性を尊重して人権意識を育む。 2.1 価値観とセクシュアリティ 2.2 人権とセクシュアリティ 2.3 文化、社会とセクシュアリティ
3	ジェンダーの理解	生物学的性と社会的性（ジェンダー）の違い、ジェンダー平等について考える。 3.1 ジェンダーとジェンダー規範の社会構築性 3.2 ジェンダー平等、ジェンダーステレオタイプ、ジェンダーバイアス 3.3 ジェンダーに基づく暴力
4	暴力と安全確保	いじめ、デートDV、性暴力などから身を守るための予防や対処法を学ぶ。 4.1 暴力 4.2 同意、プライバシー、からだの保全 4.3 情報通信技術（ICTs）の安全な使い方
5	健康とウェルビーイング（幸福や喜び）のためのスキル	心身の健康を保ち、幸福（ウェルビーイング）に生きるための判断力やスキルを養う。 5.1 性的行動における規範と仲間の影響 5.2 意思決定 5.3 コミュニケーション、拒否、交渉のスキル 5.4 メディアリテラシーとセクシュアリティ 5.5 援助と支援を見つける
6	人間の体と発達	身体の仕組み、プライベートゾーン、二次性徴や妊娠などのからだの変化を正しく知る。 6.1 性と生殖の解剖学と生理学 6.2 生殖 6.3 思春期 6.4 ボディイメージ
7	セクシュアリティと性的行動	性的欲求、同意、避妊や性感染症の予防など、セクシュアリティに関する行動について学ぶ。 7.1 セックス、セクシュアリティ、生涯にわたる性 7.2 性的行動と性的反応
8	性と生殖に関する健康	妊娠・出産に関する健康リスクや、リプロダクティブ・ライツ（産む・産まないを選択する権利）について理解する 8.1 妊娠と避妊 8.2 HIV/エイズのスティグマ（恥と罪の意識）、ケア、治療、サポート 8.3 HIV を含む性感染症リスクの理解、認識、低減

2. 現状の課題・背景

・ 団体が考える現状の地域課題・背景

学校教育における限界と、進まない学びの環境 学習指導要領の「はどめ規定」に対し4万2千筆の撤廃署名が提出されるなど、見直しの機運は高まっています。しかし、文部科学省が「性交を教えることは禁止していない」とする一方で、現状はまだ「誰もが学校で正しく学べる環境」には至っていません。医療の進化（緊急避妊薬の市販化）と、知識不足のギャップ 2026年2月より緊急避妊薬（ノルレボ）の処方箋なしでの市販化が始まり、アクセスは向上しました。しかし、時間との勝負であるこの薬を正しく使うためには「性の正しい知識」が不可欠であり、制度が変わっても教育が追いついていない現状があります。

・ 解決するために考えたこと

大人のアップデートで子どもを守る 学校での義務化を待つのではなく、地域の大人たちがまず知識をアップデートし、子どもたちの「安心・安全な基地（サポーター）」になる必要があります。望まない妊娠などで子どもたちが希望や未来をあきらめることのない社会を、地域から作っていきます。

3. 企画の概要

団体名 Take a step

一般部門

・企画のねらい・コンセプト

講座とワークショップを楽しく開催することで、自分や周りの人を守る「からだところの権利」について語り合える場を作りたい。「包括的性教育」を知ってもらう

・実施方法 3回開催予定

予定日時：土日、長期学校休み

予定場所：親子連れが多い石川県立図書館 だんだん広場

実施形態：遊びながら学ぶワークショップ＋親向けに講演＋性教育絵本コーナー

予定講師：昨年の講師に紹介依頼 霜鳥 めぐみ氏（新潟県）日高 球実氏（白山市）山本 亜弥氏（金沢市）

スケジュール：親子の参加、講演内容に興味のある方を対象とする。だんだん広場スクリーン前に、絵本コーナー、ワークショップの場所を設置し、講演前から体験してもらう時間をとる。体験のみでも可能とする。講演中も一部の体験コーナーを行えるようにする。国際セクシュアリティ教育ガイダンスの表記を利用して、学びのねらいを明確にして「包括的性教育」を知ってもらう

・事業効果 親子連れが多く来訪する会場で3回開催することで、「おなじみ」感を持ってもらい、包括的性教育を知ってもらうことに繋がる

4. 今後の展望について

- ・ 今回の事業を通して、どのように活動の幅を広げていきたいのか

2年間の活動を通して、包括的性教育を認知してもらうための「国際セクシュアリティガイダンス」に基づいている活動内容であることを明らかにする必要があると考えた。年齢別に学習目標があり、はじめの対象である5歳～8歳の目標から取り組むことは、学校教育がかわるのを待つのではなく、家庭内で親から子への教育として取り組むことができることを伝えたい。人権を基盤に、性についてのポジティブなイメージを育てる方法のひとつに、遊びを取り入れたワークショップを提供していきたい。

5. 事業収支予算

収入

科 目	予 算	摘 要
金沢市委託	300000	
自己資金	4151	
計	304151	

支出

科 目	予 算	摘 要
謝金	60000	講師 3 名分
交通費	15540	講師 3 名分
交通費	30000	スタッフ、ボランティア
委託料	80000	録画使用权、配信技術料
教材材料費	18000	ワークショップ材料
通信運搬費	10000	チラシ郵送費、振込手数料
消耗品	5000	コピー用紙、OPP袋
使用料	46860	県立図書館
印刷製本費	35751	
計	304151	